

校長漫筆記

はじめての定期考査に込めた願い



先週末から、本校にとって記念すべき「初めて」の定期考査が始まりました。教室で真剣にペンを走らせる皆さんの姿を見て、私は改めてこの学校の始まりを実感しています。

実は、この学校の設置準備段階において、教育委員会内で「定期考査を本当に実施すべきか」について、何度も熱心に議論を重ねてきました。今の時代、試験を廃止する選択肢もありました。しかし、私たちはあえて、定期考査を実施することを選びました。

それは、本校のスローガンである「Go Beyond（自己超越）」を体現するために、定期考査が極めて有効な「成長の場」になると考えたからです。

私が考える定期考査の「意味」は、次の3点に集約されます。

① 「わかったつもり」を「できる」へ（学びの超越）

授業で「わかる」ことは入り口に過ぎません。テストという締め切りに向けて知識を整理し、自分の力だけで「解ける」状態へと高めるプロセスこそが、真の学びです。

② 自分の「現在地」を知る羅針盤（自己理解）

テストの結果は、皆さんを評価し固定するものではありません。暗闇の中で進むべき方向を示す地図のようなものです。「どこが強みで、どこに課題があるか」を知ることは、自分を超越するための第一歩となります。

③ 「やり抜く力」という一生の武器（精神の超越）

計画を立て、誘惑に打ち勝ち、準備をする。この「自分を律する経験」こそが、将来皆さんが社会で困難に立ち向かう際の大きな自信となります。

一期生の皆さん。前例のない中で皆さんが今感じている不安や緊張は、現状に甘んじず「挑んでいる」証拠です。

もし思うような点数が取れなかったとしても、恥じることはありません。大切なのは点数に一喜一憂することではなく、結果を冷静に見つめ、「次はどう動くか」を考えることです。

最後に。考査は、誰かと競うための「競争」ではありません。

「Go Beyond」——。昨日までの自分、先週末までの自分を少しだけ超えていく。その小さな超越の積み重ねが、皆さんの確かな進路を創り上げると信じています。